

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104026		
法人名	医療法人社団松涛会		
事業所名	グループホーム ケアタウン山の田		
所在地	下関市武久町1丁目19番30号		
自己評価作成日	平成27年1月23日	評価結果市町受理日	平成27年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成27年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ケアタウン山の田は医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく一体的に提供されるという地域包括ケアの考えをベースに作られ、山の田内科、薬局、リハビリセンター、小規模多機能、コンビニ、50戸のサービス付き高齢者住宅を併設した複合施設の中にあります。また地域住民の方々に見守られ折々にふれあいながら、家庭的な居心地の良い雰囲気の中で、その人らしく元気に明るく、ゆったりと暮らせる環境づくりを目指しています。併設山の田内科による健康管理、管理栄養士による、栄養バランスと行事に配慮した献立と「真空低温調理法」という安全で美味しい食事の提供が、健康的な生活をサポートしています。市街地に位置し交通の便が良い為、ご家族が頻繁に訪れてくださり、ご家族と共に心から寄り添える介護、基本理念に沿った独自の介護理念を掲げ利用者に寄り添った支援を実現しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、将来の認知症カフェを想定した「お茶会」を開催しておられ、地域から多くの人が参加されるなど、地域住民とのかかわりを深めるための取り組みをしておられます。代表者や管理者は全職員の質の向上を重要に考えられており、職員の希望による外部研修の機会を増やしておられ、研修で得られた成果を職員間で共有され、気づきやアイデアを実践に活かせるように工夫されることで、職員の意識が高まり、利用者へのサービスの質の向上につながっています。利用者がいつも話しておられる県外の場所に職員が出かけられて、撮ってこられた写真を見た利用者が、昔を懐かしがられて話される言葉や表情などから、本人の思いや希望を把握され、家族と共有されたことで、利用者と家族との絆が深まるように支援をしておられます。常に利用者の声に耳を傾け、得られた情報を家族と共有しケアに活かされ「その人らしい暮らし」の支援に努めておられます。事故防止への取り組みとして、日頃起こりうる事故を想定して年間計画を立てられ、毎月、講師を務める担当職員を決めて、看護師の助言を得ながら、事故防止のための方法や応急手当の習得に取り組みられ、すべての職員に実践力が身につくように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中でいきいきとその人らしくゆったりと楽しく自由にありのままに」を目標にして、事業所内に掲示し、朝礼時唱和するなど日々確認し、理念に沿った取り組みをしている。今年度は理念をさらに具体化した「家庭的な雰囲気の中でできることを活かし生きがいを見い出します」というサブ理念を職員全員で考え実践できた。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念に、職員が実践に結びつけやすいように新たな理念を加えて、事業所内に掲示している。毎朝の申し送り時の他、日々のケアの中や月1回ある職員会議時に理念が活かされているかを話し合い、共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同じ建物に高齢者向け住宅があり、地域性を持つ。ボランティアや地域の小学生の訪問演奏も受け入れた。施設主催のイベントに地域住民の参加があり、文化祭・また地域のもちつき大会に参加し相互交流をしている。今年度は認知症カフェの手始めとしてGH主催のお茶会を開き、地域の方をお招きした。	自治会に加入している。地域行事の餅つき大会では餅をついて、丸めて食べたり、文化祭では設けてある事業所用展示スペースに作品（書道、パッチワーク、コースター）を出展して参加し、小学校の金管バンドコンサート鑑賞など、利用者は地域に出かけて交流を楽しんでいる。法人主催の夏祭りでは地域の子どもから大人まで多くの参加があり、交流している他、金管バンド演奏で来訪の小学生やハンドベル演奏の高校生、ボランティア（ビューティレッスン、オカリナ演奏、サックス演奏等）で来訪の人などと交流している。地域の人が相談や気軽に出入りがしやすいようにお茶会を開催し、30人の参加があるなど事業所の力を活かして地域とのつながりを深める取り組みをしている。散歩時や買物時に挨拶を交わしたり、馴染みの外食店の利用をしている他、花の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員、また見学者を受け入れることで当事業所への理解が深まり、サービスにもつながった。「認知症の人と家族の会」の集いを、当施設内にて開催したり悩みなどの相談や支援の方法など認知症についての情報交換の場となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の外部評価の結果をふまえ改善点を真摯に受け止め、職員各々が自己評価を行う中で認識を新たにして、事業所全体で具体的に実行し努力している。	管理者は評価の意義を説明し、職員全員に自己評価をするための書類に記入してもらい、まとめている。自己評価を通して日々の業務の見直しができたと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、応急手当や初期対応の実践的訓練の実施や災害時の地域との協力体制について目標達成計画を立てて取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容はミーティングで報告し、議事録の内容は入口に常時閲覧できるように設置しており、家族には手渡ししている。家族に出席して頂くことで当会議の意義を理解して頂いている。また会議での意見はサービス向上の為に活かし、輪番制で一般職員も参加し理解を深めている。	2か月に1回法人併設施設と合同で実施している。行事や活動、研修、外部評価結果等の報告を行い、意見交換をしている。災害時の地域の避難場所やおれおれ詐欺事件の防止、今後取り組む課題等について話し合っている。地域の高齢者についての意見(無理解のため介護認定に結びつかない例など)があり、将来の認知症カフェを想定した事業所主催のお茶会を開くなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でも意見交換して協力関係を築いている。問題点や不明な点はその都度、介護保険課の担当職員へ相談し、懇切丁寧な説明や指導を受け、改善・サービスの向上に取り組んでいる。	市担当課とは、運営推進会議時や電話、FAX、メール、直接出向くなどして、情報交換や相談をして助言を得るなど、協力関係を築いている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に事例相談や市の福祉サービスの情報を得るなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で「絶対に拘束を行わない」という方針を掲げている。マニュアルを整備し勉強会を行い、職員が周知徹底している。不穏状態・転倒転落のリスクのある方に対しても、その都度話し合い、見守り・寄り添う支援をしている。	マニュアルに基づいて内部研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について理解している。玄関には施錠をしないで、利用者一人ひとりの不安や混乱内容を把握して職員間で話し合い、利用者に寄り添って対応しているなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が注意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い、知識の共有を図り防止に努めている。対応の仕方はマニュアルに従って対処する。チェックリストに各自が記入し意識を高めている。DVDを回覧し自主研修する。その都度注意喚起している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルを整備している。運営推進会議にて事例検討したり、相談窓口の確認をした。個々の必要性が生じた場合、家族間や関係者と話し合いができるように理解を深めていく。施設全体で任意後見制度の研修や、外部での「高齢者の権利を考える集い」に参加した。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては充分理解をしていただく時間を取って説明をしている。また疑問点に関してはその都度説明を行っている。改定等ある場合は文書及び口頭での説明を行い、同意書も頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付は、意見箱の設置などマニュアル化し運営に反映できる体制を整えている。また、利用者・家族からの相談は話しやすい雰囲気作りに努め、意見は運営に反映させている。	苦情や相談の受付体制や処理手続き、第三者委員を明示して、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。家族には運営推進会議時や面会時、行事参加時、電話等で聞いている。家族は週に3回以上の面会があり、面会時には職員の方から利用者の状況を話し、家族が気軽に相談しやすいように工夫している。洗濯物の取り違いや温度、湿度等居室環境への配慮についての要望があり、適切に対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的または随時行う職員会議を通じて、職員の意見や提案を述べやすい雰囲気作りを心掛けている。山の田会議において職員の状況や意見を反映させている。また、必要に応じて法人主催の事業所長会議にて上申している。	管理者は月1回の職員会議や年2回の個人面談時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で職員に声をかけ、気づきや提案が言いやすいように配慮している。意見や提案は管理者が処理できない内容は月1回ある山の田会議へ提案し、さらに月1回ある法人事務所長会議に上申して反映している。台所設備のメンテナンスや外部研修受講の希望等の意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人幹部参加の会議、また年2回の人事考課により各職員の実績・勤務状況を把握している。資格取得にチャレンジするように支援している。個人面談など対話を多く持ち、要望をくみ取るよう努め助言、指導している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定期的に行う勉強会の実施、法人全体の研修への参加、また外部研修も多くの職員が自由に参加できるよう調整し、希望を聞きながら機会を確保し人材育成に力を入れている。	外部研修は、職員に情報を提供し、本人の希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を確保している。受講後は研修参加報告書を提出して、回覧し、月1回ある研修会で伝達して共有している。実践者研修や中間管理職研修の受講は受講者だけではなく、職員全員の介護実践への意識が高まり、スキルアップにつなげている。職員の希望を優先し、個々に年3回以上の外部研修の受講があるなど、全ての職員が質を向上できるように取組んでいる。法人では計画的に月1回研修があり、必ず1名は参加し復命をして共有している。内部研修は月1回実施し、ターミナルケアや緊急時の対応について実践的研修を実施している。新人職員は先輩職員が指導者となって介護の知識や技術の習得に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム間の会議では事例検討やケアプランについての意見交換など行っている。隣接の小規模多機能施設とサ高住とは常に交流があり、勉強会や外部研修などを共にしサービスの質の向上に努めた。グループホーム協会主催の研修にも参加し他施設との交流もあった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前ケアマネとの連携を通じて、本人と会話する時間を持ち、家族からの情報を細かく聞き、フェイスシート等を作成する。安心できる環境作りを整えながら、なじみの関係が生じるまで根気強く傾聴し、全てを受容するように努めている。また、入居前に施設見学し安心感を得ていただく。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を持つことで、本人とは別に家族の意向・要望が何かを見極めながら、家族の不安を取り除くことで、少しずつ良い関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの生活の支援内容がどのようなものであるかきちんと伝える中で、家族のニーズに対して適切な対応ができるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中でその人の許容範囲を見極め、同じ視点で興味のあるものに応じ、出来たことに喜び悩み事や苦しみに対して共に悩む、心の共有に努めている。また、ここで出会った人たちがひとつの家族のように感じることができる。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にすることで、家族とともに本人が穏やかに安心できる生活を目指している。常に家族と相談し合える機会を設ける事で、本人を支える関係を築いている。家族にも参加していただき一緒に外出するなど共に支えることができた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪れやすい、暖かな雰囲気を作っている。知人・家族からの手紙のやり取りや、なじみの美容院、法事や墓参り、外食に出掛け本人が大切にしてきた人や場所との関係が継続出来ている。	家族や親せきの人、入居前に利用していた施設の友人、趣味仲間、職場の仲間の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。勤めていた職場付近に出かけたり、馴染みの神社や自宅付近をドライブしている。利用者がいつも話している県外の場所を職員が撮影に行き、その写真を見て利用者が懐かしく話す言葉や表情から思いや希望の把握ができ、家族と共有できたことで、利用者と家族との絆が深まるなど、得られた情報を本人の暮らしに活かしている。家族の協力を得て馴染みの美容院や商店の利用、結婚式や法事に出席し、墓参り、仏様を拝みに帰る、外食、外泊、家族旅行など馴染みの人や場所とのとの関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を考慮した席の配置を工夫したり、ふれあいやきっかけを提供している。レクリエーションを通じて連帯感を作り、楽しい時間を共有して頂けるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居の場合は随時お見舞いに行くなどしている。家族の相談を受け、他のサービス機関に繋げるよう、また希望の方には再利用出来るように柔軟な対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前面談による生活歴・入所中の関わりの中で、可能な限り本人の思いを聞き推し量る。家族の意向も十分に参考にし、カンファレンスで意見を出し合い、センター方式(C-1-2)も活用している。	入居前に、本人や家族から聞き取りをして、基本情報や暮らしの情報をセンター方式のシートに記録している他、入居後は、心身の情報シート(私の姿と気持ちシート)に、利用者の思いや意向を記入して、6か月後に書き直している。日々の関わりの中での利用者の言葉や行動を記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取りをしたり、職員間で話し合って本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの担当ケアマネジャーからの情報や、機会ある度に本人に尋ねたり、家族にセンター方式(B-1暮らしの情報)(B-3私の暮らし方シート)に記入してもらい、情報収集や今までの生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の心身の状態を把握するため、毎日バイタルチェックや心身状態が一目でわかるチェック表があり、異変があれば医療連携している看護師に伝え、スタッフ間の報告や連絡を密にしている。または伝達ノートに記載し「今」の現状がわかるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、医療関係者、家族間のカンファレンスの中で、日頃の様子や本人と家族の意向を取り入れて、個別の介護計画を作成し、目標の設定・実施状況・目標達成の確認を行っている。	利用者を担当している職員と計画作成担当者を中心に月1回、カンファレンスを行い、利用者や家族、主治医、看護職、リハビリセンター職員、職員等の意見を参考にして介護計画を作成している。1か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に見直しをしている。要望や状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録にその人の言葉や行動を具体的に記録し、介護計画の見直しに活かしている。またケアプランに沿ったケアが実践されているかどうかを、チェックする表を作成して利用者の心理面に寄り添うケアを心掛けている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外出や行事への参加、リハビリへの参加、本人・家族の希望や意見を参考にしている。施設合同のレクリエーション参加や、誕生日に「コーラスグループを招きたい」「施設のカフェを貸してほしい」という家族の申し出を受け入れ柔軟に対応した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや文化祭、餅つき等の参加、隣接コンビニへの買い物や外食、カフェや華展などにも出掛けている。施設の存在を認めてもらい暖かなまなざしで接してもらえ安全で豊かな暮らしを楽しんでおられる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めている。体調の変化に応じて速やかに対応も行っている。併設の山の田内科をかかりつけ医として濃密な連携が取れている。急病時には往診も可能で、治療内容によっては適切な医療機関を紹介する。	利用者や家族の了解を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1回の訪問診療があり、週3回(1回は訪問看護)看護師による健康管理、看護処置、緊急時対応についての相談や指示を受けている。眼科による往診が月1回ある他、他科受診は家族と協力して支援している。受診結果は家族と共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護師と週三回の体調管理を行い職員と口頭報告、記録等で情報交換を密に行っている。バイタル他各種のチェック表で不調が見られれば、看護師に相談し医療機関に受診している。夜間や休診日は相談に応じ、アドバイスをしてもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設内科医師と総合病院また母体病院との連携が密なため、早急な対応ができる。医療連携を行っている訪問看護ステーション、医療相談員との連携もスムーズで必要時には情報交換もできている。また長期になりそうな場合も病院関係者との相談と関係づくりを行う。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向かった際、事業所でできることを説明し看取りについて家族との意思確認するとともにかかりつけ医や看護師と十分に話し合い、家族に看取りの指針を理解していただき、終末期に向けたケアが出来る体制を整えている。現在、看取り希望の家族と連絡と相談を重ね、医療関係者とともにチームで支援している。	指針があり、契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族、主治医、訪問看護師等、関係者と話し合い方針を共有して、チームで支援に取り組んでいる。ターミナルケアを2例経験している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント・アクシデント報告書を活用して検討し再発防止に努めている。また緊急時の連絡網・マニュアルを作成し、AEDを設置し実際に使用訓練と救急車要請までのシュミレーションをを行い、事故に備え毎月勉強会「緊急時の対応」「実技チェック」などを行い職員全員が習得に努めている。夜間は小規模多機能と連携するように取り決めている。	インシデント・アクシデント報告書に発生時の状況を記録し、当日の勤務者全員で話し合い、対応策を記録して共有している。申し送りノートへの記録やカンファレンス、月1回の職員会議で再度確認して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署によるAEDの使用方法や救急救命法の講習を全職員が受講している。年間計画を立て、毎月、事故発生に備えて通報訓練や具体的な緊急時の対応(骨折、出血、誤嚥、誤飲、意識消失、心肺停止等)について、看護師の助言を得て全職員で勉強会を実施し、実践力が身につくように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練、マニュアルを整備し施設全体で昼夜想定した年2回の避難訓練や地震・水害に対しても危機意識を高め運営推進会議で災害対策について自治会・行政とも意見交換した。実際に避難場所付近を歩いてみたり、ハザードマップを見て地域でどのような災害が多いかを確認する。朝礼時に消火器の位置を口頭で確認している。	消防署の協力を得て法人全体で年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練や避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方等を実施している。訓練には、利用者や隣接のコンビニエンスストア職員、運営推進会議メンバーが参加している。、地域の災害対策での法人の役割や具体的な地域との協力体制について運営推進会議で話し合いをしているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として人格を尊重しプライドを傷つけないように言葉掛けには十分注意をしている。また常日頃から、敬語で接するようにしている。マニュアルを活用し研修を行っている。接遇研修を開催し全員参加した。	接遇マニュアルを基に法人や内部での研修を実施し、職員は人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。利用者を人生の先輩として接し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。不適切な対応があれば管理者が注意している。個人情報取り扱いに注意し、守秘義務は徹底するように指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「散歩に行きたい」「おいしいものが食べたい」「どうしたらいいんだろう」「帰りたい」など本人の思いが自由に言える環境づくりや傾聴を心掛けて、自己決定を支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人との交わりが得意でない方には、無理に行事やレクリエーションにお誘いすることがないようにその人のペースを大切にしている。体調不良の方は休養していただき無理のない支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれ(マフラーや帽子)、清潔な生活ができるように支援している。毎月の移動美容室などで髪を整え気分をリフレッシュしていただき、定期的なお化粧ボランティアに協力してもらい、おしゃれを楽しんでいる。(メイクアップ・ネイルなど)		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や季節、彩りを配慮した献立になっている。ご自分の意志で下膳やテーブル拭きなどできることはしていただく。夏はかき氷を作り、秋はお月見だんごなどのおやつ作りを楽しまれた。地元特産のネギを使った「ネギ焼き」はホットプレートで自ら焼いたものをその場でおいしく楽しく召し上がった。その人に合わせた食事形態や好みに合わせた支援ができた。	副食は法人からの配食を利用している。利用者は盛り付けや野菜、豆腐を切る、テーブル拭き、お茶出し、ランチョンマットを並べる、配膳、下膳など、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(おはぎ、白玉団子、ねぎ焼き、たこ焼き、パフェ、カップケーキ、ワッフル、ところてん、かき氷)や干し柿づくり、季節行事食(おせち料理、恵方巻、ソーメン流し、クリスマス)、弁当を持ってピクニックにでかけたり、外食、誕生日のデコレーションケーキなど工夫して食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で栄養バランスは整っている。摂取量・水分量は個人差があるので、個々の状態を把握し、特に嚥下障害のある方へは刻み食・ミキサー食等細かい配慮をしている。夏の水分摂取にかき氷やゼリーは好評、冬は利用者自家製のレモンを収穫してもらい、レモンティやホットレモンで補うことができた。お茶が苦手な方は家族に相談し個別対応した。経口栄養剤で栄養不足を補った。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の自主性や口腔状態に応じた介助をしている。義歯は毎日ポリデント消毒、ガーグルベース・コップ・歯ブラシも毎日消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し自尊心を傷つけないように声掛け誘導している。その際プライバシーを守るように心掛けている。適切なトイレ誘導により失敗やおむつの使用を減らすように心がけている。また快適に排泄できるように、清掃を徹底し清潔にしている。	排泄記録表を活用して排泄パターンや習慣を把握し、利用者ひとり一人に応じた言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事の工夫、乳製品摂取、散歩、体操などで対応している。慢性的便秘が続く場合は医療連携看護師と相談して医師による指導のもと、緩下剤を使用する。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴時間、入浴方法を工夫している。また機械浴も対応できる。本人の拒否がある時は、別の日に変更する。体調や気分に合わせて清拭も行っている。足浴も実施して皮膚の清潔を図り、下肢の浮腫や皮膚の疾患が改善した。ゆず湯や香りを楽しむ工夫をしている。家族持参の入浴剤で対応した。	入浴は13時30分から16時までの間可能で、利用者の希望や状態に合わせて、毎日や希望する時間に入浴できるよう支援している。利用者の好みの石鹸やシャンプー、リンス、入浴剤やアロマ剤を使い、柚子の香りを楽しむなど、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない利用者には、無理強いしないで言葉かけの工夫や入浴日や時間を変えるなどの対応をしている。利用者の状態に合わせて、リフト浴やシャワー浴、清拭、部分浴、足浴をするなど個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの場所で休息できるよう支援している。暖かく安らげる空間作りに配慮し、クッションや膝かけを使用してもらう。眠れないときは話し相手になり暖かい飲み物を提供し、心の安定をはかり安眠へ誘導する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設の調剤薬局と連携を取り服薬管理をしている。薬の変更、症状の変化等があったときにはミーティング、連絡簿等で速やかに全職員に伝達する。服薬介助には十分注意を払い、トリプルチェックし誤薬防止に努め、服薬介助した職員は表に記名し責任を持つ。嚥下状態不良の方には服薬ゼリーを使用するなど工夫している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴から得意なものを見い出し、できる喜びを感じて頂けるよう支援している。例・・・生け花、書道、押し花、茶道、家事、など。作品は法人の文化祭に出展し、楽しみ喜びを感じていただく。お寺、神社参りを心の支えとしている方もあり、外出できている。	テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌、昭和の写真集を読む、編物、囲碁、かるた、トランプ、書道、押し花、折り紙、コースターづくり、魚釣りゲーム、体操、モップ掛け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、花の水やり、ごみ箱づくり、クッションカバーづくり、雑巾を縫う、生け花、お茶会でお茶を立てる、食事の準備、調理、盛り付け、後片付け、おやつ作りや干し柿づくり、夏祭り、ボランティア(、ビューティレッスン、オカリナ演奏)との交流、地域の行事(文化祭、花展、餅つき大会)への参加など、楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり、張り合いや喜びが持てるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やこちらからの声掛けにより、近所の公園まで散歩したり、ドーナツショップに出かけ職員とともに楽しむ。安岡病院バラ園、お花見や長府功山寺へ紅葉狩りに家族も一緒に出掛け喜ばれた。「家に帰りたい」と訴えられる方に対しては、自宅とその周辺まで散策し喜ばれた。家族との一泊旅行を楽しまれた方もいる。	近隣の散歩やコンビニエンスストアでの買物、ドーナツショップに出かけたり、季節の花見(梅、紫陽花、バラ、菖蒲、蓮田、紅葉)、ドライブ(自宅付近、長府庭園、リフレッシュパーク、園芸センター、功山寺)に出かけている。買物や市民館でのマジックショー見学、小学校で金管バンド演奏を楽しんだり、初詣に出かけている他、家族の協力を得て、馴染みの美容院の利用や外食、外出、買物、外泊、旅行など利用者の希望に添って外出支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は家族が管理している。1名の方は、財布を持つことで安心され、新聞やお菓子の希望があれば近くのコンビニまで買い物支援してる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては本人の要望があれば支援し、携帯電話を持っている方もありいつでも家族と連絡が取れる。家族からのハガキを受け取ったり、自ら筆を持たれ札状やお返事や年賀状を書き喜ばれた。また、職員が手作りの年賀状を一人ひとりに差し上げて感動していただいた。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には癒しの音楽を流し、室温・湿度・換気などにも気をつけている。行事や季節感を取り入れた室内装飾、生花は安らぎの空間を作っている。また、居心地良く過ごせる空間作りのために清掃は常に心が掛けられている。	玄関前には大きな雛壇を飾り、玄関や室内には季節の花が生けてあり、季節を感じることができるように工夫している。共用のリビングは自然の明るさがあり、テーブルや椅子、テレビ、ソファが配置してあり、利用者は思い思いの場所に座ってゆったりと過ごしたり、キッチンでは利用者が鍋物の豆腐や野菜を切り、食事の準備をしている他、廊下には古いミシンが置いてあり、時計や親しみのある壁飾りなどに、家庭的な雰囲気づくりをしている。清潔、温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子、ソファの配置を、それぞれが寛いで頂けるよう工夫している。気の合う利用者同士でゆっくり話をしたり、ソファで眠ったり、職員と話をしたり、お茶を飲んだりと思ひ思いのスタイルで過ごしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持参された家具や仏壇、小物・手作り作品、家族からの手紙、アルバムなど家族とともに相談しながらレイアウト等工夫している。転倒のないように配置し、快適な生活が過ごせるようにしている。	ベッドやソファ、タンス、椅子、時計、仏壇、鏡台、小物入れ、唐家具、温湿度計、など利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真や祝いの色紙、さげもんを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑らない床材、バリアフリー等で安全に楽に移動ができる。また居間も職員が見守りやすいワンフロアの為、行動を規制する事なく、自由で自立した生活が送れる。トイレもわかりやすいように手作りのプレートで表示している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームケアタウン山の田

作成日：平成 27年 6月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	36	災害時における地域住民との協力体制の構築	・災害時に率先して、地域住民と協力できる良い関係を築く。 ・地域の中で信頼される事業所になること。	・運営推進会議等で意見交換をし、参考にする。 ・行政・自治会・民生委員にも協力を要請する。 ・地域住民との合同での防災訓練や緊急時の対応勉強会の開催 ・隣接するセブンイレブンとの協力体制	3ヶ年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。